

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 2 区分
 【発行日】平成 18 年 1 月 12 日 (2006.1.12)

【公開番号】特開 2000-145805 (P2000-145805A)
 【公開日】平成 12 年 5 月 26 日 (2000.5.26)
 【出願番号】特願 平 10-320932
 【国際特許分類】

F 1 6 D 3/224 (2006.01)

B 6 0 B 27/02 (2006.01)

F 1 6 D 3/20 (2006.01)

【F I】

F 1 6 D 3/224 A

B 6 0 B 27/02 C

F 1 6 D 3/20 K

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 11 月 4 日 (2005.11.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 0】

次に、図 8 は、本発明の実施の形態の第 3 例を示している。上述した第 1 ~ 2 例の場合が、肩部 4 6 a の軸方向両端部に段部 3 0 を形成していたのに対し、本例の場合には、この段部 3 0 を、肩部 4 6 b の軸方向一端部（図 8 の右端部）にのみ形成する事により、加工工数の低減を図っている。又、本例の場合、上記段部 3 0 は、上記肩部 4 6 b の軸方向両端部のうち、この肩部 4 6 b の高さ寸法（この肩部 4 6 b の基端縁である内側係合溝 7 の底面 7 a から、この肩部 4 6 b の先端面である内輪 2 c の外周面 2 a までの直径方向に亙る寸法）が大きい側の端部（図 8 の右端部）に形成している。本例の場合、上記段部 3 0 を上記肩部 4 6 b の高さ寸法が大きい側の端部に形成する事とした理由は、以下の通りである。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 3】

ところで、上記等速ジョイントの運転時に、この等速ジョイントのジョイント角が大きくなり、しかも大きなトルクを伝達する事に伴い、この等速ジョイントを構成する各ボール 4（図 1）が上記肩部 4 6 b の端部に形成した上記段部 3 0 の端縁に乗り上げた場合には、前記内側係合溝 7 に対する上記各ボール 4 の接触楕円が上記段部 3 0 の端縁部分で途切れ、これら各ボール 4 の転動面に所謂エッジロードが加わる。これら各ボール 4 の転動面にこの様なエッジロードが加わると、これら各ボール 4 の転がり疲れ寿命が著しく低下する。但し、この場合に、上記各ボール 4 の転動面と上記段部 3 0 の端縁との接触圧を小さくできれば、上記エッジロードによる転がり疲れ寿命の低下を抑える事ができる。この為、本例の場合には、上記エッジロードによる上記各ボール 4 の転がり疲れ寿命の低下を抑えるべく、これら各ボール 4 の転動面と上記段部 3 0 の端縁との接触圧が最も小さくなる部分である、上記肩部 4 6 b の高さ寸法が最大となる側の端縁（図 8 の右端縁）に、前

記段部 3 0 を形成する事とした。その他の構成及び作用は、前述した第 1 例の場合と同様である。